

【1面から続く】

製品別カーボンフットプリント(CFP)の算定で世界の化学業界の先頭を走ってきたのが独BASFだ。独自のアルゴリズムによる解析システムを開発し、自社4万5000点に上る化学品の二酸化炭素(CO₂)排出量をいち早く算出。欧米企業を中心とした化学企業の共同イニシアチブである「Together for Sustainability(TfS)」の活動の一環として、CFPのグローバルガイドライン策定にも携わるなど業界の取り組みを先導している。

BASFが初めてサステナビリティにコミットすると宣言したのは1994年。80年代後半に高まった地球環境問題や、92年のリオの地球サミットを受け、既存の社会システムの限界に直面したのがその背景に

世界標準へ仲間作り着々

ある。ライフサイクルアセスメント(LCA)調査の枠組みで25年前からCFPの計算も開始した。近年、市

場が高まる開示要求に心えらべく開発したのがデジタルアプリケーションの「SCOTT(スコット)」だ。

これにより化学製品を使用するさまざまな業界や市場において、製品の気候変動への影響を直接比較し評価することを可能とする。日本化学工業協会が今春に公表した算定ガイドラインの策定作業でも参照されている。

原材料調達や製造工程で排出されるCO₂の解析システムで、投入データは原材料2万品目をはじめ、年間10テ(テラは1兆)ト時の電力使用量、保有設備700基に及び、1万5000以上の複雑な化学品の製造プロセスを体系的に整理することで個別製品の値をはじきます。

TfSは今年3月、ドイツの自動車メーカーなどが運営するデータ流通プラットフォーム「カテナーX」と化学製品や樹脂原料のデータ連係に関する覚書(MOU)を締結した。BAS

CFPの算出するための具体的な仕様が含まれておらず、同一製品のCFPを他と比較することが難しかった。

公平な条件の下、業界全体で製品比較を可能にする基準の必要性に迫られて設けたのが、BAS Fを創設メンバーに11年に設立されたTfSによるCFP算定

はじきます。

22年秋に公表された。化学製品の「Cradi

22年秋に公表された。

47社に拡大している。

22年秋に公表された。

47社に拡大している。

22年秋に公表された。

47社に拡大している。

22年秋に公表された。

47社に拡大している。

22年秋に公表された。

47社に拡大している。

22年秋に公表された。

47社に拡大している。

22年秋に公表された。

47社に拡大している。



4万5000品目のCO₂排出量をいち早く可視化した(独ルートヴィヒスハーフェンの本社工場)

BASF、CFP算定で市場先導

(基幹システム)との連携

化学製品の「Cradi

47社に拡大している。